

自己評価結果公表シート(令和 6 年度)

学校法人東粉浜幼稚園

1. 本園の教育目標

本園では、めざす子ども像として「いつも健康でがんばる子ども」「自分から進んでする子ども」「あたたかい心でみんなと力を合わせる子ども」を設定し、子ども達の「おもいやりの心と活動する意欲」を育てることを目標にしている。

2. 本年度重点的に取り組む具体的な目標と計画

全教職員が本園の建学の精神と 73 年に及ぶ歴史と伝統に立ち返り、新教育要領の内容理解を真摯に受け止め、日々の保育の具体化を図っていくことは極めて重要である。

そこで、全教職員の共通理解の場を持ち、目標達成のための具体的な方策・計画を設定することにした。

3. 評価項目の達成及びそのための取り組み計画

評価項目	成果と今後の課題
① 幼稚園教育要領をふまえ、園児の実態に即した本園の指導計画を作成する。 (A)	1. 年度末の反省と改善点をふまえ、各歳児の指導計画を作成し、見通しをもったきめ細やかな保育をすることができた。 2. 指導計画を基に日案を各担任が作成し、日々の記録を残し、反省点を明確にすることができた。 3. 業務支援ツール「パピーナ」の活用を図った結果、短時間に整理できるようになり、保護者連携にも役だった。 4. 園長・主任・副主任が計画案を点検し、指導・助言を行った結果、改善等が明確になった。
② 安全管理・安全指導の充実を図る。 (A)	1. 徒歩通園の安全については、担当教諭、当番保護者との連携強化等、特段の配慮をした結果、安全に通園できた。 2. メール配信からパピーナの有効活用により、園から各家庭への発信をより早く行い、周知・徹底するように努めた。 3. 地震・火災の発生等、災害時における子どもの安全確保のための訓練を計画的に行い、安全に避難できるように指導してきた。津波の場合の避難訓練を実施するとともに引き渡し名簿の作成ができた。
③ 子ども理解に努める。	1. 全教職員で子どもの情報を共有し子ども理解に努めた。 2. 個々の育ちを大切にしたい個別の指導計画を作成し実

(A)	践を図るとともに、点検・反省の場を定期的にもった。 3. 副理事長(発育・発達カウンセラー)を中心とした教育相談の充実を図り、幼稚園・家庭とが共通理解することにより子ども理解に努めた。幼児発達検査も大学との共同研究により、保護者の協力もあり3年間の発育発達の様子がよく分かるようになった。
④ 教職員研修の充実を図る。 (A)	1. 園の課題を明確にし、課題解決を図る実践研究を各学級、ポジションにおいて積み上げていった。 2. 長期休業中等には、教職員自らが研修内容を主体的に選択し、進んで受講できるように、園外研修の充実に努めた。 3. 自主的な学年別研修課題を設定し、研究発表の機会を設け、全員研修の場を持つことができた。 4. オンライン研修を受講する教職員も増えた。 5. 園内研修会を設け、年度末にそれぞれが工夫し発表を行うことができた。
⑤ 質の高い保育の提供に努める。 (A)	1. 感性を育む描画造形、音楽教育には、従来通り、専門講師を招聘し、担任も指導技術を磨く場となり、互いの緊張感が見られる有効な場となった。担任の資質向上に生かしたい。 2. グローバル化・国際化の時代を鑑み、三歳児より英語指導に取り組んできた。保護者の参観を計画したい。 3. 子どもたちが身につけた力を生活発表会などで発揮できるよう環境・場づくりを工夫してきた。運動会・作品展・生活発表会では、保護者より子どもの成長や取り組みに賞賛の声をいただいた。
⑥ 地域交流の活性化に努める。 (A)	1. 地域主催の体験イベントへの保護者・子どもの積極的な参加を促し親子で楽しめる地域交流が図られた。 2. 帝塚山音楽祭・住吉区民祭り・咲洲こども EXPO・てんしばクリスマスマーケット・住吉警察イベントなどで、幼稚園のチアリーディングクラブの子ども達はパフォーマンスすることができ、発表の喜びと充実感を得ることができた。 3. PTA夏まつりでは隣接する小学校を中心に中学校との連携も図り、吹奏楽部とチアリーディングのコラボを楽しんだ。 4. 隣接小学校の協力で、運動場・芝生のうえで、からだを思いっきり開放して、遊べる機会を意図的・計画的につくることができた。

⑦ 保育環境の整備に努める。 (B)	1. 自然とのふれあいの環境づくりを工夫する。花壇、屋上菜園の充実等を図り、花や野菜に直接ふれる機会を通して、生命に目を向けさせるようにしてきたが、収穫の体験と喜び程度にとどまった。 2. 児童図書等の整備や貸し出しを図り、積極的な活用を促した。美しく丁寧なことばにふれる機会を多くもつようにした結果、「ありがとう」「ごめんね」の声がいろんな場面で聞かれるようになった。
⑧ 子育て支援活動の充実を図る。 (B)	1. 未就園児を対象にした親子教室「ポッポちゃん教室」「ピヨちゃん教室」「園庭開放」、子育てに関する何でも相談窓口「教育相談」の充実に努めたてきたが、希望者の増加は見られなかった。 2. 「土曜日の預かり保育」、放課後事業「のびのび教室」への参加は積極的に行うことができた。「ピヨちゃん教室」の参加者を促す工夫をしていきたい。 3. 課外保育の「チアリーダーディング」「体操教室」では、子どもたちの意欲・演技力アップが見られた。このような取り組みをより多くの保護者に知らせる工夫をしていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員一人ひとりが本園の保育方針を認識し、保育の充実を図る。

結 果	理 由
教職員全体連絡会・研修会、事前連絡会、学年打ち合わせ会の充実を図り、保育方針の徹底に努めてきた。 また、教職員の一人ひとりが事前計画、事後の反省を記録し提出することにより、次の行事、日々の保育に生かせるよう配慮してきた。 その結果、教職員の技量(保育力)も高まり、自信を持って保育に向き合うようになってきている。	1. 本年度は重点課題として、引き続き、「子ども達の社会性の育成」を最優先課題にとりあげ「社会性の発達・育成」の場を日々の保育活動に意図的意識的に取り入れ実践してきた。その結果、人を思いやる・やさしい心が見られるようになってきた。 2. 当初、自分の居場所に不安が大きく、登園を渋っていた子ども達も担任や保育者からの優しい包容力と周りの子ども達の頑張り・優しさ・温もりにふれ、自分から友だちに声をかける等、明るく、たくましく活動できるようになってきた。 3. 「できなかったこと」が幼稚園で過ごす生活の中で、一つひとつ「できるようになってきたこと」が、子ども達の一番の楽しさ・喜び・うれしさであり、次への意欲・自信につながっている。どの子も成長が著しく幼稚園教育の醍醐味を実感することができた。

(A)	4. 保護者間のふれあいも園生活(学級・行事等)での子どもを通してのつながり、PTA活動を通してのつながりへと広がりを持つようになってきた。 また、放課後支援事業の充実により、子ども達は年少・年中・年長という縦集団でのふれあい・協同活動を通してその時間を楽しみにする子が増えてきた。 今後は課題を明確にして、安全面や内容の工夫に取り組む必要がある。
PTA活動が計画的に行われ、保護者相互のふれあいが深まった結果、園運営においても大変スムーズで、親子ともども協力的な関係ができています。 (A)	1. 園の方針の徹底を図るには、教職員だけでなく保護者にどれだけ認識と協力が図れるかが大切である。 そこで、保護者会、園行事への保護者参加、PTA活動の充実を図ることに努めた。また今年度初めて保護者アンケートを実施した。保護者の思いや要望に寄り添うことができるよう今後取り組んでいく。 2. PTA役員の続投が見られ、PTA行事等にかかる引継ぎが円滑に運び、保護者間の雰囲気がとてもよかった。次年度もこうしたチームづくりをしていきたいと役員選出もスムーズに運んでいる。

5. 今後取り組むべき内容

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み
社会性や体力づくりの場作りの工夫に努める。	園舎改築工事が予定されているので遊び場の確保や安全の確保に努める。また、遊びの中で生じる友だち間のトラブルに「自ら考え、判断し、行動できる」ように、保育者は見守り、支援していくよう努める。
利用者のニーズにあった保育の充実を図る。	子育て支援事業の拡張を図る。
2歳児・3歳児の子ども達の交流を進めるよう設定の仕方を検討する。	2歳児・3歳児教育では、お友だちといっしょに遊べることを目標に、遊ぶこと(3歳児教育、年少組の保育内容につながるウォーミングアップ的な活動)の楽しさを実感できるようにしてきている。そのなかで一緒に活動する友だちへの意識も芽生え、共に行動することも見られるようになってきた。 今後は、子ども達の発達段階と実態を勘案して、園内における日常的なふれあい・交流を考えていきたい。 (その他) 保護者のニーズに一層敏感に寄り添うように努める。 教職員・保護者・園児への登降園管理システムやインターネットなどデジタル化を進める。